

## 教師の生涯学習の実態と学習ニーズ

—静岡県内の小中学校教員対象の調査データをもとに—

望月 厚志

(茨城大学)

熊谷 紀男

(常葉学園大学)

渋谷 恵

(常葉学園大学)

鈴木 守

(常葉学園大学)

### 【要旨】

この研究は、学校教員が子どもたちや地域住民にとっての「生涯学習実践者」としてのモデルを示すことが一層求められているというわが国の社会状況を背景に、学校教員（「教師」）の「日常生活上の生涯学習」の現状と学習ニーズ、学習阻害要因等を明らかにし、今後の学校教員にとっての生涯学習政策の全体像や具体的な生涯学習計画・学習プログラムを立案する為の基礎データを得ることを目的としている。その中で、今回は、教師の生涯学習の内容を中心とした実態と今後の学習ニーズについての分析を試みた。その結果、内容的には「教授的力量の形成」・「運動一般」・「芸術観賞」を中心に行っており、全体としてその成果も高く評価していることなどが明らかとなった。その一方で、「教師の生涯学習」の阻害要因として「教師自身の時間・体力・精神的なゆとりのなさ」があることもあきらかとなった。

### 1. 本研究の目的と今回の分析について

現在、教育基本法の中にも「生涯学習」の明記が求められることが象徴しているように、社会生活を営む上で「生涯学習」の必要性が国民全体に浸透してきている。そのようなわが国の社会状況の中で、当然ながら、学校教育も生涯学習の基本的方針の中で生まれ、かつて生涯学習審議会がその答申の中で述べたように、また、生涯学習（教育）論の現代的な提唱者の一人であるポール・ラングランが主張したように、学校の教員（教師）が自ら進んで生涯学習に取り組むこと、すなわち、学校の教員が子どもたちや地域住民にとっての「生涯学習実践者」としてのモデルを示すことが一層求められる社会状況となってきたといえる。いわば、「教師の生涯学習」の現実化の時代を迎えているといえよう。

「教師の生涯学習」に関する実証的な研究としては、石原英雄を中心とした広島大学関係者による研究<sup>1)</sup>、有馬廣實の研究<sup>2)</sup>、宮崎和夫らによる研究<sup>3)</sup>、青森県総合社会教育センターによる研究<sup>4)</sup>などがある。これらの中で、「教師の生涯学習」そのものの実態の研究としては、石原英雄らの研究と有馬廣實の研究が特に注目される。石原英雄らの研究は地

域を限定して小中学校の教員と保護者を対象にして同時に生涯学習経験の実態や学習阻害要因について調査・比較分析を行なった最初のものである。しかしながら、この研究では、分析の枠組みにおいて、最も重要と思われる学習内容の分析で学習方法を最初から固定して学習内容を分析しており、講座・教室への参加などの学習方法別の分野ごとの学習経験率はわかるものの「教師の生涯学習」の全体像が分析されているわけではない。また、例えば、学習の阻害要因として「仕事で通う時間がないこと」が分析されている。確かに、その指摘は重要な指摘と思われるが、「継続的な講座・教室」への参加の阻害要因として分析されるのにとどまっている。この点に関しても全体的・構造的に分析されていない。

また、有馬廣實の研究は、学習内容を「教師の研修活動」と「自発的な学習活動」とに分けて県域を越えて大量の調査・詳細な分析を行っており、石原英雄らの研究をさらに一歩進めたと高く評価できる。しかし、対象者が45歳以上の「長期在職の経験豊富な」高校教員に限定されている。「生涯学習」の「垂直的な統合」という観点からすると、少なくとも「各年代ごと」「経験の少ない」教員の分析も当然必要かつ重要となる。また、現状分析は詳細になされているが、今後の「教師の学習ニーズ」についてはあきらかにされていない。つまり、学校教員（教師）の「日常生活上の生涯学習」という視点から地域をコントロールして地域の教員層全体を対象として全体・構造的・統一的に分析した結果は、これまでほとんど明らかにされてきてはいないといえる。

以上のような検討をふまえ、この研究では、日常生活上の「教師の生涯学習」そのものに焦点化し、特定地域の小中高校の教師全体を対象として、①「生涯学習」そのものに関する学習経験、②「生涯学習」観、③これまでの教師の生涯学習の実態、④教師の生涯学習の阻害要因、⑤教師の学習ニーズを把握することを目的としたアンケート調査（5）を行い、教師の「生涯学習」観の形成からこれまでの学習経験、「学習ニーズ」に至るまで総合的に分析し、今後の学校教員（教師）にとっての生涯学習政策の全体像や具体的な生涯学習計画・学習プログラムを立案するための基礎データを得ることを考えたのである。

それらのうち、①「生涯学習」そのものに関する学習経験、②「生涯学習」観を中心とした分析結果については、例えば、過去の生涯学習の経験が将来の生涯学習に対する希望を強く規定していることなどをあきらかにしてすでに公表してきている（6）。今回は、小中学校の③教師の生涯学習の現状分析、④教師の生涯学習の阻害要因、⑤教師の学習ニーズについての分析結果について述べることにした。（望月厚志・熊谷紀男）

## 2. 教師の生涯学習の実態の分析

### (1) 教師の生涯学習の実態

教師になってからこれまで職務以外の時間や休日等に「生涯学習」を「行なってきた」と回答した教師は66.2%、「行なってこなかった」と回答した教師は33.8%となっている。これらを性別でみると、女性教師が「行なってきた」率が高く、男性教師が「行なってこなかった」率が高いといった特徴がわかる。

### (2) 生涯学習活動—内容と程度

「生涯学習」を「行なってきた」教師に対して、学習内容項目毎に活動の程度、方法、時間・期間についてみてみると次のような結果となる。

学習経験率の高い学習内容としては、「指導法・教材研究」・「運動一般」・「芸術観賞」・「町内会・PTA 活動」・「芸術活動」を指摘することができる。逆に、学習経験率の低い学習内容としては、「地域の学習活動の指導・支援」が最も多く70%以上に達し、続いて、「加齢や障害についての理解、介護に関する学習」、「外国語の学習」、「子育てに関する学習」「家庭生活」の順になっており、いずれの項目も半数以上が指摘している（第1表参照）。

これらの学習内容について、性別でみると、女性教師よりも男性教師において「学校経営、教育法など経営に関する学習」、「情報処理に関する学習」、「野外活動」の学習経験率が高くなっている。逆に、「芸術活動」については女性教師の学習経験率が高くなる。

年齢別でみると、「学校経営、教育法など経営に関する学習」と「人文・社会・自然科学に関する学習」では50歳代での学習経験率が高く、30歳代では低いものとなっている。また、「町内会、子ども会、PTAなどの活動への参加」では、40歳代と50歳代での学習経験率が高く、20歳代及び30歳代では低いものとなっているなど明らかに世代間において学習経験の差異が見られる。また、勤務年数別でみると、年齢の場合と同様の傾向に加え、「情報処理に関する学習」、「子育てに関する学習」について「10年未満の勤務年数」の教師では学習経験率が低く、「20年以上30年未満の勤務年数」の教師では高くなっているといった特徴があきらかとなる。これらの性別や世代間にみられる違いについては、例えば、コンピューターの開発やその進歩・導入などの社会変化など、その年代がおかれた「生活上からの要求」が学習経験に反映していると考えられる。

第1表 生涯学習活動—内容と程度（単位：%）

|                                   | 大変よく<br>行なって<br>きた | よく<br>行なって<br>きた | 時々<br>行なって<br>きた | たまに<br>行なって<br>きた | 行なって<br>こなかった |
|-----------------------------------|--------------------|------------------|------------------|-------------------|---------------|
| 1. 指導法, 教材研究など教授的力量的の形成           | 14.1               | 26.9             | 25.2             | 19.2              | 14.5          |
| 2. ストレス解消, カウンセリング等, こころの健康に関する学習 | 3.4                | 16.7             | 25.3             | 30.5              | 24.0          |
| 3. 学校経営, 教育法など経営に関する学習            | 4.0                | 11.6             | 16.5             | 22.3              | 45.5          |
| 4. 英語など外国語の学習                     | 6.6                | 7.0              | 10.5             | 17.5              | 58.3          |
| 5. インターネット等コンピュータ, 情報処理に関する学習     | 6.1                | 14.3             | 25.5             | 29.9              | 24.2          |
| 6. 歴史, 経済, 環境など人文・社会・自然科学に関する学習   | 4.4                | 10.0             | 20.5             | 23.6              | 41.5          |
| 7. ジョギング, ゴルフ, スキー, 体操, 散歩など運動一般  | 11.8               | 24.4             | 30.3             | 19.7              | 13.9          |
| 8. 健康法, 生活改善など健康の維持, 増進に関する学習     | 2.2                | 11.1             | 13.3             | 22.7              | 50.7          |
| 9. ストレス解消, カウンセリング等, こころの健康に関する学習 | 2.7                | 6.2              | 17.3             | 23.6              | 50.2          |
| 10. 料理, 日曜大工など家庭生活に関わる学習          | 2.2                | 6.2              | 18.1             | 21.7              | 51.8          |
| 11. 育児・家庭教育など子育てに関する学習            | 4.0                | 7.1              | 12.4             | 20.8              | 55.8          |
| 12. 加齢や障害についての理解, 介護に関する学習        | 1.8                | 2.2              | 8.0              | 18.6              | 69.5          |
| 13. 美術, 映画, 演劇, 音楽などの芸術観賞         | 9.2                | 21.3             | 29.2             | 30.8              | 9.6           |
| 14. 合唱・演奏, 華道・茶道, 舞踊などの芸術活動       | 8.4                | 13.8             | 17.2             | 15.5              | 45.2          |
| 15. 釣り, キャンプなど野外活動・自然体験           | 3.1                | 10.6             | 18.1             | 27.9              | 40.3          |
| 16. 町内会, 子ども会, PTAなどの活動への参加       | 11.0               | 20.3             | 27.6             | 21.1              | 19.9          |
| 17. ボランティア活動への参加                  | 5.2                | 3.9              | 12.5             | 32.3              | 46.1          |
| 18. 地域の学習活動の指導・支援                 | 3.1                | 3.6              | 9.8              | 12.5              | 71.0          |

### (3) 生涯学習活動の方法及び時間・期間

生涯学習活動の方法については、「教授的力量的の形成」や「外国語学習」「健康法」「カウンセリング」などでの「個人学習」、「スポーツ」「芸術活動」「野外活動」での「体験・実技」の指摘率の高いことが目立っている（第2表参照）。また、実施した期間や時間では、

基本的には「週末の休日（土日）」を中心にして、「教授的力量形成」に関するものは「平日勤務後（夜間）」や「研修日」に、「人文自然科学研究」「こころの健康」「芸術活動」は「平日勤務前（早朝）」に、「野外活動」は「長期休暇」に行ってきている。

第2表 生涯学習活動一方法（単位：％）

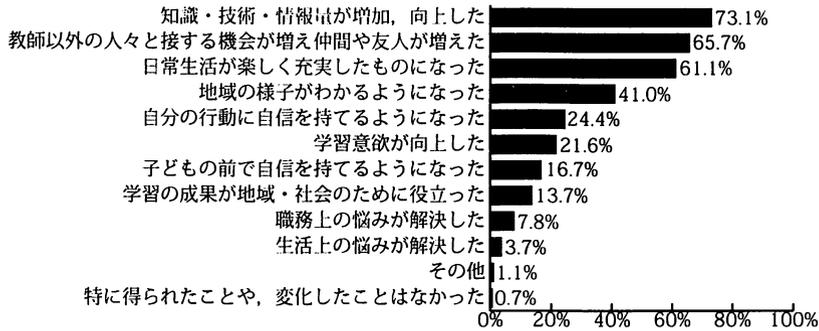
|          | 読書・本の利用 | ラジオ、テレビ等放送視聴 | インターネット等情報機器 | 講義・講演 | 体験・実習・実技・実演 | グループワーク、討論 | 展示、演奏、実演<br>見る聞く | 通信教育 | その他  | 複数の方法 |
|----------|---------|--------------|--------------|-------|-------------|------------|------------------|------|------|-------|
| 教材研究     | 34.9    | 0.6          | 2.3          | 14.0  | 7.0         | 12.8       | 0.6              | 0.6  | 1.7  | 25.6  |
| 生徒指導     | 30.5    | 0.7          | 0.7          | 28.5  | 10.6        | 9.9        |                  |      |      | 19.2  |
| 学校経営     | 41.1    | 1.9          |              | 32.7  | 1.9         | 5.6        |                  | 0.9  | 0.9  | 15.0  |
| 外国語      | 7.2     | 34.9         | 1.2          | 4.8   | 24.1        | 2.4        | 1.2              | 6.0  | 3.6  | 14.5  |
| 情報処理     | 10.5    |              | 17.8         | 9.9   | 43.4        | 1.3        | 0.7              | 0.7  | 3.3  | 12.5  |
| 人文自然科学研究 | 42.7    | 8.2          | 0.9          | 11.8  | 12.7        | 2.7        | 3.6              |      | 0.9  | 16.4  |
| スポーツ     | 2.1     | 1.1          |              |       | 86.8        |            |                  |      | 4.7  | 5.3   |
| 健康法      | 24.5    | 10.6         | 3.2          | 26.6  | 20.2        |            |                  |      | 2.1  | 12.8  |
| こころの健康   | 30.5    | 10.5         |              | 21.1  | 18.9        | 2.1        | 1.1              |      | 1.1  | 14.7  |
| 家庭生活     | 18.7    | 11.0         | 2.2          | 3.3   | 42.9        |            | 1.1              |      | 3.3  | 17.6  |
| 家庭教育     | 33.7    | 3.6          | 1.2          | 27.7  | 12.0        | 4.8        |                  |      | 2.4  | 14.5  |
| 加齢・介護    | 22.4    | 12.1         |              | 25.9  | 22.4        |            |                  |      | 1.7  | 15.5  |
| 芸術鑑賞     | 1.1     | 2.6          |              | 1.1   | 12.1        | 0.5        | 71.6             | 0.5  | 1.1  | 9.5   |
| 芸術活動     |         |              |              | 0.9   | 65.2        | 2.6        | 24.3             | 0.9  | 0.9  | 5.2   |
| 野外活動     | 0.8     | 0.8          |              |       | 90.2        |            |                  |      | 1.6  | 6.6   |
| 町内会      |         |              |              | 3.4   | 73.9        | 4.5        |                  |      | 14.2 | 4.0   |
| ボランティア   |         |              |              | 2.7   | 80.0        | 1.8        |                  |      | 10.0 | 5.5   |
| 地域支援     |         |              |              | 7.3   | 85.5        | 1.8        |                  |      |      | 5.5   |

#### (4) 生涯学習の成果

「生涯学習」の成果についてみてみると、「生涯学習」の成果として、「特に得られたことや、変化したことはなかった」と回答した教師は1％に満たないことが象徴しているように、「生涯学習」を「行なってきた」教師の大部分は、全体として「何らかの成果を得ることができた」と考え、生涯学習を肯定的にする評価する傾向がみられる。

その「生涯学習」の成果として最も多い指摘は、「知識・技術・情報量が増加、向上した」で、続いて「教師以外の人々と接する機会が増え仲間や友人が増えた」「日常生活が楽しく充実したものになった」と「知的な向上」と「日常生活上の充実感」を「生涯学習」の成果としてあげている点に注目される。その一方で、「生活上の悩みが解決した」、「職務上の悩みが解決した」、「学習の成果が地域・社会のために役立った」という「悩み解決」や「社会貢献」の点を指摘した教師は数量的には少ないものとなっている（第1図参照）。

この成果について、さらに、構造的に分析すると、次のような4つのタイプに分かれることがわかる。第一は「子どもの前で自信を持てるようになった」「自分の行動に自信を持てるようになった」「学習意欲が向上した」「知識・技術・情報量が増加、向上した」という「自信・向上」型、第二は「職務上の悩みが解決した」「生活上の悩みが解決した」という「悩み解決」型、第三は「日常生活が楽しく充実したものになった」という「日常生活充実」型、第四には「教師以外の人々と接する機会が増え仲間や友人が増えた」「地域の様子が変わるようになった」「学習の成果が地域・社会のために役立った」という「社会的交流・地域貢献」型に分類することができる（詳細なデータの提示は割愛している）。



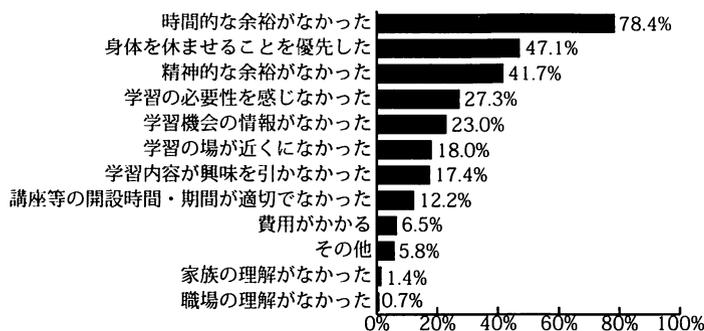
第1図 生涯学習の成果

### (5) 生涯学習の阻害要因

次に、逆に、教員になってからこれまで職務以外の時間や休日等に「生涯学習」を「行なってこなかった」教師のその主な理由・原因についてみると、最も高い指摘率を示す項目は「時間的な余裕がなかった」で、「生涯学習」を「行なってこなかった」教師の8割近くが指摘している。続いて「精神的な余裕がなかった」、「身体を休ませることを優先した」ということを約4割以上が指摘している。その他の阻害要因では、「学習機会の情報がなかった」、「学習の場が近くなかった」、「学習内容が興味を引かなかった」、「講座等の開設時間・期間が適切でなかった」など「生涯学習の内容と機会の提供」に関する項目をあげた教師は1割から2割前後、「職場の理解がなかった」、「家族の理解がなかった」と「周囲の無理解」の指摘率は量的には少ないものとなっている（第2図参照）。また、これらの阻害要因について、性別でみると、男性教師では「学習の必要性を感じなかった」、女性教師では「講座等の開設時間・期間が適切でなかった」の指摘率が高い。

さらに、これを構造的にみると、第一に、「職場の理解がなかった」「家族の理解がなかった」、第二に、「講座等の開設時間・期間が適切でなかった」「学習の場が近くなかった」、第三に、「費用がかかる」、第四に、「時間的な余裕がなかった」「学習の必要性を感じなかった」「学習内容が興味を引かなかった」、第五に、「身体を休ませることを優先した」「学習機会の情報がなかった」という5つのタイプに分かれる（データの提示は割愛している）。

このように、教師を取り巻く間接的な外的な要因というより、直接的な「教師自身の時間的、体力的、精神的なゆとりのなさ」が、教師の生涯学習を阻害する最大の中心的な要因になっており、さらに様々な要因が関連していることがわかる。（鈴木 守）



第2図 生涯学習の阻害要因

### 3. 教師の生涯学習の学習ニーズの分析

#### (1) 教師の生涯学習に対する全体的な希望

生涯学習活動に対する今後の活動意欲について全体的にみても、今後、生涯学習活動を「行いたい」という回答が全体の約9割（「非常に思う」25.2%、「思う」50.9%、「少し思う」12.5%）を占めている。これらを性別で見ると、女性教師において「行ないたい」と「非常に思う」という率が高くなる。しかし、年齢や勤務年数と生涯学習の希望の間には統計的に有意な差はみられない。先にみた教師の生涯学習活動率66.2%を考慮すると、これまで生涯学習活動を行ってこなかった教師の中にも、「今後は行いたい」との希望を持っているというさらなる潜在的な学習要求があることがわかる。

#### (2) 生涯学習活動の希望—内容と程度

生涯学習を「行いたい」と考えている教師に限定し、希望する学習内容とその程度についてみても、「ぜひとも行いたい」活動としては、「芸術鑑賞」が最も高く、続いて「運動一般」「芸術活動」そして「指導法・教材研究」の順となっており、「町内会・PTA活動」「ボランティア活動」「地域の学習活動の指導・支援」など、いわゆる「地域貢献活動」については消極的な様子を示している。一方、明確に「全く必要性を感じない」活動として指摘している内容としては、「家庭教育」が最も高く25%以上に達し、次いで「学校経営に関する学習」「家庭生活」の順になっており、いずれも20%前後の指摘率となっている（第3表参照）。

これらの内容について、性別で見ると、女性教師では「教授的力量形成」、「外国語の学習」、「芸術鑑賞」、「芸術活動」を「ぜひとも行ないたい」とする率が高く、逆に男性教師では、これらの内容に「必要性を感じない」とする率が高い。男性教師に比べて女性教師が、職能向上のための学習に加えて、生涯学習のなかで幅広い関心の充足を期待していることがわかる。特に、男性教師において、「芸術鑑賞」「芸術活動」などの希望が少なくまた活動希望の範囲が狭くなっていることについては、単に「関心がない」というだけではなく、実際の活動に男性が参加しにくい別の要因、例えば、これまでの講座内容や団体活動の在り方や活動方法、仲間作りなどの運営といった要因にその原因があるのではないかと推測される。但し、それについてここではあきらかにすることはできない。

年齢別では、20歳代で「教授的力量形成」、「生徒指導に関する学習」、「学校経営と教育法など経営に関する学習」を「ぜひとも行ないたい」とする率が高くなる。30歳代では「人文・社会・自然科学に関する学習・研究」を「全く必要性を感じない」、「子育てに関する学習」を「ぜひとも行ないたい」「行ないたい」とする率が高くなる。一方、50歳代では、「教授的力量形成」、「子育てに関する学習」に「全く必要性を感じない」、「学校経営と教育法など経営に関する学習」、「人文・社会・自然科学に関する学習・研究」を「行ないたい」とする率が高いなど、先にみたこれまでの学習経験の内容と同様に、世代間での希望する学習内容に明らかな差異がみられる。これらの結果から推察すると、教師として働き始める20歳代では職業上必要とされる具体的・実能力的な能力の向上、30歳代では結婚・出産といったライフスタイルの変化に伴い必要とされる学習、50歳代では教頭・校長など学校経営に責任を持つ役職として必要な学習、また歴史、宗教、哲学など、教養を高め、社会や人生についての理解を深めるといった高齢者特有の学習ニーズが認められる。つまり、それぞれの年代に応じた生活実態、職業上の位置づけ・役職に伴う学習課題が、

第3表 生涯学習活動の希望—内容と程度(単位:%)

|                                   | ぜひとも<br>行ない<br>たい | 行ない<br>たい | どちら<br>とも<br>いえない | あまり<br>必要性を<br>感じない | 全く<br>必要性を<br>感じない |
|-----------------------------------|-------------------|-----------|-------------------|---------------------|--------------------|
| 1. 指導法, 教材研究など教授の力量の形成            | 20.3              | 47.2      | 16.5              | 10.4                | 5.7                |
| 2. ストレス解消, カウンセリング等, こころの健康に関する学習 | 14.3              | 47.9      | 19.7              | 11.1                | 7.0                |
| 3. 学校経営, 教育法など経営に関する学習            | 11.3              | 29.1      | 24.9              | 16.2                | 18.4               |
| 4. 英語など外国語の学習                     | 21.3              | 42.7      | 18.8              | 11.1                | 6.1                |
| 5. インターネット等コンピュータ, 情報処理に関する学習     | 18.6              | 52.8      | 17.3              | 6.3                 | 5.0                |
| 6. 歴史, 経済, 環境など人文・社会・自然科学に関する学習   | 12.0              | 42.9      | 23.3              | 8.5                 | 13.2               |
| 7. ジョギング, ゴルフ, スキー, 体操, 散歩など運動一般  | 33.6              | 45.8      | 11.8              | 3.3                 | 5.5                |
| 8. 健康法, 生活改善など健康の維持, 増進に関する学習     | 18.6              | 38.9      | 21.2              | 8.7                 | 12.5               |
| 9. ストレス解消, カウンセリング等, こころの健康に関する学習 | 14.0              | 36.9      | 23.9              | 11.1                | 14.0               |
| 10. 料理, 日曜大工など家庭生活に関わる学習          | 10.0              | 35.2      | 25.2              | 11.5                | 18.1               |
| 11. 育児・家庭教育など子育てに関する学習            | 3.9               | 19.7      | 26.0              | 24.0                | 26.3               |
| 12. 加齢や障害についての理解, 介護に関する学習        | 7.3               | 33.5      | 29.7              | 13.7                | 15.7               |
| 13. 美術, 映画, 演劇, 音楽などの芸術鑑          | 37.5              | 45.8      | 8.0               | 4.6                 | 4.0                |
| 14. 合唱・演奏, 華道・茶道, 舞踊などの芸術活動       | 20.3              | 33.0      | 18.7              | 11.4                | 16.5               |
| 15. 釣り, キャンプなど野外活動・自然体験           | 19.6              | 38.6      | 22.8              | 9.2                 | 9.8                |
| 16. 町内会, 子ども会, P T Aなどの活動への参加     | 4.8               | 34.3      | 36.5              | 11.2                | 13.1               |
| 17. ボランティア活動への参加                  | 5.6               | 43.2      | 35.2              | 8.0                 | 8.0                |
| 18. 地域の学習活動の指導・支援                 | 4.5               | 35.0      | 33.8              | 10.6                | 16.1               |

教師の生涯学習のニーズに如実に反映しているといえよう。

### (3) 生涯学習活動の希望—方法

学習方法については、「読書・本の利用」「講義・講演」「体験・実習・実技・実演」による学習を希望する割合が高くなっている(第4表参照)。ここで特に注目されるのは、様々な学習活動において、「体験・実習・実技・実演」の希望が多いことである。例えば、「教材研究」「生徒指導」「学校経営」「人文社会科学研究」「こころの教育」「家庭教育」「加齢・介護に関する学習」など、従来、「個人学習」や「集会学習」の形で行ってきたとする学習について、「体験・実習」型の学習への希望が高まっていることがわかる。さらに、「生徒指導」や「学校経営」、「家庭教育」などの分野では、「グループワーク・討論」という方法への希望も増えている。生涯学習の推進にあたっては、各種メディアの活用が望まれているが、「外国語学習」の際の「ラジオ・テレビ」の活用、「情報処理についての学習」の際の「インターネット等情報機器」の活用以外では、その希望はきわめて低い数値に留まっている。

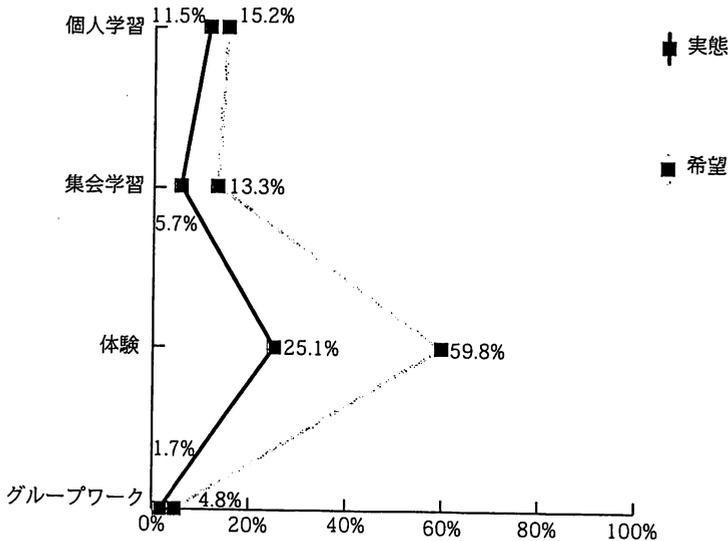
こうした動向を明確にするため、学習方法全体を大きく4つのカテゴリー(個人学習、集会学習、体験、グループワーク)に整理したうえで、「これまで行ってきた学習方法」(第2表)と「今後行いたい学習方法」(第4表)とをまとめて全体的なレベルで比較対照させた結果が第3図である。この図をみると、全体として「体験」型の学習への希望が高まっていることがより明確になる(第3図参照)。

### (4) 生涯学習を希望しない理由

今後、生涯学習活動を行おうと「あまり思わない」(10.8%)、「全く思わない」(0.7%)と回答した者に対して、その理由を複数回答で尋ねた結果が第4図である。これによれば、「時間的な余裕がない」との回答が最も高く、以下、「身体を休ませることを優先」「精神的な余裕がない」が続いている(第4図参照)。これらの理由を年齢別にみると、30歳

第4表 生涯学習活動の希望一方法(単位:%)

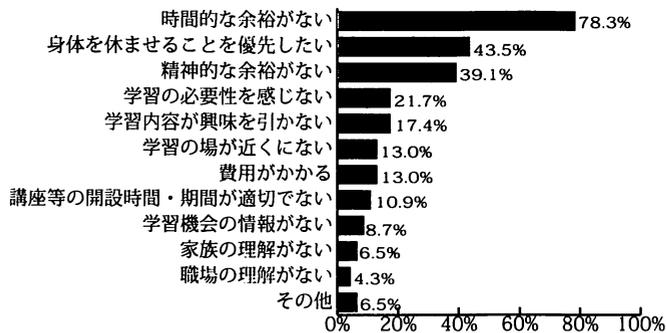
|          | 読書・本の利用 | ラジオ、テレビ等放送視聴 | インターネット等情報機器 | 講義・講演 | 体験・実習・実技・実演 | グループワーク、討論 | 展示、演奏、実演<br>見る聞く | 通信教育 | その他  | 複数の方法 |
|----------|---------|--------------|--------------|-------|-------------|------------|------------------|------|------|-------|
| 教材研究     | 26.1    | 0.8          | 2.0          | 23.3  | 17.0        | 13.8       | 0.8              | 0.4  | 1.2  | 14.6  |
| 生徒指導     | 13.7    | 0.4          | 1.2          | 30.5  | 24.5        | 14.5       | 0.4              |      |      | 14.9  |
| 学校経営     | 28.1    |              | 1.0          | 36.7  | 11.0        | 11.0       | 1.0              |      |      | 11.4  |
| 外国語      | 5.4     | 14.6         | 1.2          | 6.2   | 48.8        | 4.2        | 0.4              | 4.6  | 1.9  | 12.7  |
| 情報処理     | 4.8     | 0.4          | 21.9         | 5.6   | 55.0        | 1.5        |                  | 0.4  | 0.4  | 10.0  |
| 人文自然科学研究 | 29.4    | 4.3          | 1.7          | 20.8  | 24.2        | 0.9        | 5.2              | 1.3  | 1.7  | 10.4  |
| スポーツ     | 1.0     | 1.4          |              | 0.3   | 87.6        | 1.4        | 0.7              |      | 3.8  | 3.8   |
| 健康法      | 11.9    | 4.7          | 0.8          | 19.1  | 47.5        | 2.5        | 0.8              |      | 1.3  | 11.4  |
| こころの健康   | 12.7    | 4.4          |              | 28.8  | 32.8        | 7.9        | 0.4              |      | 2.2  | 10.9  |
| 家庭生活     | 8.3     | 3.9          | 0.4          | 2.2   | 72.6        | 0.9        | 2.2              |      | 1.7  | 7.8   |
| 家庭教育     | 23.4    | 2.7          |              | 27.7  | 22.3        | 11.2       | 0.5              |      | 3.2  | 9.0   |
| 加齢・介護    | 12.6    | 2.8          |              | 27.9  | 38.1        | 2.3        | 1.9              |      | 1.9  | 12.6  |
| 芸術鑑賞     | 0.7     | 2.2          | 0.4          | 1.8   | 17.3        | 0.4        | 69.3             |      |      | 7.9   |
| 芸術活動     | 1.7     | 0.9          |              | 1.7   | 56.2        | 1.3        | 30.9             |      | 0.9  | 6.4   |
| 野外活動     | 0.8     | 0.4          |              | 1.2   | 88.3        | 1.2        | 1.2              |      | 3.1  | 3.9   |
| 町内会      | 0.4     |              | 0.4          | 1.7   | 77.3        | 2.9        |                  |      | 14.0 | 3.3   |
| ボランティア   | 0.8     | 0.4          | 0.4          | 0.8   | 84.0        | 2.3        |                  |      | 8.4  | 3.1   |
| 地域支援     | 0.4     |              | 1.3          | 4.7   | 74.6        | 5.2        | 0.4              |      | 9.9  | 3.4   |



第3図 生涯学習活動の方法の実態と希望との比較

代の「家族の理解がない」の指摘率が高いのが特徴的である。また、勤務年数別にみると、勤務年数が「10年未満」の教師では「精神的な余裕がない」、勤務年数が「30年以上」の教師では「講座等の開設時間・期間が適切でない」の指摘率が高い。また、校長での「時間的な余裕がない」、「学習の必要性を感じない」の指摘率が高くなるのも特徴的である。

(渋谷 恵)



第4図 生涯学習を希望しない理由

#### 4. 教師の生涯学習の実態と学習ニーズ—今回の分析のまとめと今後の課題

これまで、「教師の生涯学習」の内容と学習ニーズを中心に分析結果について述べてきたが、最後に今回の分析結果についてまとめ、今後の課題について述べてみたい。

教師の「生涯学習」のこれまでの学習実践率は、今後の学習希望率ともに一般の人々よりあきらかに高い傾向を示している。このことは、全体としては、教師が「生涯学習者のモデル」の役割を果たし始めていると考えることができる。そのような全体的な傾向の中で、これまでの学習内容・方法としては、「教授的力量の形成」を中心に主に「読書・本の利用」という個人学習で行ってきており、それに「運動一般」・「芸術鑑賞」が加わっている。また、全体としては「その成果」も高く評価している。しかし、その一方で、「地域の学習活動の指導・支援」、「ボランティア活動への参加」、「加齢や障害についての理解、介護に関する学習」、「子育てに関する学習」に関しての学習経験を持つ教師が少ない。また、「教師の生涯学習」の阻害要因として、単に、教師自身の「時間的余裕のなさ」だけでなく、「費用の問題」、「社会的な理解」や「学習機会開設の時間帯・期間の問題」が複雑に関連していることもあきらかとなった。さらに、今後の「学習ニーズ」としては、「運動一般」「芸術鑑賞」「情報処理」「教授能力の向上」を中心に潜在的な学習要求があり、それらを「体験・実習」「グループ・ワーク」という学習方法によって進めたいという希望が強く現れていた。その一方で、それらとは逆に「地域の学習活動の指導支援」に積極性を示したり、学習としての必要性を感じている教師が少ないこともあきらかとなった。

これらの結果を踏まえてここで重要と思われる点について述べてみると次の三点になる。まず第一に、「教師の生涯学習」の阻害要因に関係して、確かに、教師生活全般に関係する、いわゆる「教師の多忙感の問題」が「教師の生涯学習」という側面にも影響を及ぼし、一般の人々よりも強く表れていると考えることはできる。このことは、石原英雄らによる先行研究の調査結果を再確認し、その見解をさらに強固なものとしたといえる。

第二に、教師の潜在的な学習要求に関して、教師が知識の習得だけではなく、体験を通じた学習や共同での学習、場への参加や仲間作りを求めていることも重要な点を示すものと考えられる。その背景には、単に、生涯学習の学習方法として「体験」「参画」が流行しているというだけでなく、これまでの「言語を媒介として知識を伝える」という教師の役割から「実際にできる」ことが求められているという状況や「一人では対応しきれない」という現代の学校教育が抱える課題が背景としてあるようにも思える。今後、教師を対象とする生涯学習を進めるためには、こうした「学習ニーズ」への対応が求められる。

さらに、「地域の学習活動の指導・支援」、「ボランティア活動への参加」、「加齢や障害についての理解、介護に関する学習」、「子育てに関する学習」といった言わば「現代の重要な教育課題」「社会的な課題」に関する学習を行ってきた教師が少なく、さらに、「必要性を感じない」という意味では、少なくとも対象を教師に限定した場合の学習機会の設定やその支援体制を再考する必要性があることを示しているものと考えられる。

このことは、「教師の生涯学習」が既存の職務領域・個人レベル域にとどまっており、現代的な課題や社会的な課題の領域に足を踏み入れていない現れとも考えることができる。つまり、すべての学習経験が社会的な目に触れられる必要性はないと考えてはいるが、一般の人に目に映るような形での「社会的な生涯学習者モデル」としてはまだ明確な姿を現していないといえる。この点に関しては、現代の学校教育問題だけでなく社会的な問題とも関わり、今後の「学習機会の設定」や「学習支援」で注意すべき問題点かと思われる。「学社連携・融合」の考え方からすれば、特に、教師の「地域の学習活動の指導・支援」の欠如の問題は特に重要な点の一つといえる。

今回の結果は、特定地域、全国的にみて一般住民の生涯学習に対する理解が高く、多くの有名な実践が行われている諸都市を含む地域から得られたものである。それ故、その影響の度合いを別の地域ではどうなのか検証する必要性がある。また、高校教師のデータを分析し、義務教育段階の教師と比較しその実態・考え方の違いや同質性を把握することも今後の課題である。さらに、日常生活という視点から「教師の生涯学習」の実態を把握するのにより適切な分析枠組みの精密化も今後さらに検討すべき課題である。(望月厚志)

<注記>

- 1) 石原英雄他「小中学校教師の生涯学習に関する研究：その実態、学習意欲、学習興味及び大学に対する期待」『平成元年度教育研究学内特別経費による研究報告書 第2号』広島大学学校教育学部附属教育実践研究指導センター，1990年。
- 2) a. 有馬廣實「第14章 教師の生涯学習活動調査」『生涯学習・日本と世界』（上巻 日本の生涯学習），エムティ出版，1995年。  
b. 有馬廣實「教師の生涯学習活動に関する研究（1）—3都県の年長教師の場合—」『拓殖大学論集—人文・自然科学』5-1，拓殖大学人文科学研究所，1997年。  
c. 有馬廣實「教師の生涯学習活動に関する研究（2）—3都県の年長教師の場合—」『拓殖大学論集—人文・自然科学研究』3，拓殖大学人文科学研究所，2000年。
- 3) a. 宮崎和夫・森 一郎・原 清治「教員の生涯学習ニーズに関する実証的研究」（日本教育社会学会第49回大会発表資料，『日本教育社会学会第49回大会発表要旨集録』1997年。  
b. 宮崎和夫『生涯学習の市場と課題』清水書院，2001年。
- 4) 青森県総合社会教育センター『教員の生涯学習に関する意識調査』青森県総合社会教育センター，2001年。
- 5) 小中学校の教員に対するアンケート調査は，静岡県内の公立の小中学校に勤務している教員（管理職をも含む）から無作為抽出を行ない，1114名を調査対象者として2004年2月13日から3月7日の期間に郵送法によって行なわれた。有効回収票は414票，回収率37.2%であった。
- 6) 望月厚志・鈴木 守「教師の生涯学習に関する調査研究—（その1）生涯学習に関する「学習経験」の視点からの分析—」『常葉学園大学研究紀要 教育学部』第25号，常葉学園大学，2004年。

<付記> 本研究は、「平成15年度 常葉学園大学共同研究費」（共同研究者：望月厚志、熊谷紀男、渋谷 恵、鈴木 守）による研究成果の一部である。